

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501316		
法人名	社会福祉法人愛全会		
事業所名	グループホームてんとう虫の家		
所在地	札幌市南区川沿14条2丁目3-23		
自己評価作成日	平成26年4月10日	評価結果市町村受理日	平成27年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、職員全員で考えて作り上げた理念のもと日々安心してお過ごし頂く事を第一にしながら、ぬくもりと笑顔に包まれたみのある生活をご支援させて頂いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tru&JigvosyoCd=0170501316-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年12月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は札幌市郊外の閑静な住宅街にあり、木造2階建ての1、2階部分を1ユニットとして利用している。内部は明るく清潔で、家庭的な雰囲気である。近隣には同法人の病院や施設があり、医療、研修、災害対策などで協力している。管理者及び職員は内外の研修会に参加し日々研鑽している。利用者の生活の質の向上に努め、毎月行う外出支援は生活の活性化をもたらしている。各種マニュアルや記録物は要領よくまとめられ整備されている。医療については、医師の往診が定期的であり、関係医療機関との連携が構築されており、利用者や家族の安心に繋がっている。利用者家族には「通信」の送付で生活ぶりを伝え、アンケート調査で意見を把握し、要望には迅速に対処している。地域とはボランティアの訪問など良好な関係にあり、専門学校の実習生を受け入れ、福祉の実地教育にも寄与している。利用者一人ひとりに寄り添い、ぬくもりのある地域の中で、穏かに充実した生活を送れるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の住み慣れた地域での交流の場を提供し意思を尊重し心豊かに日々を送れる様理念に掲げ、日々職員間で申し送り、カンファレンス時に再度確認しています。	職員全員で作成した事業所理念は居間やパンフレットに掲示している。管理者及び職員は、理念をカンファレンスなどで確認して共有し、ケアサービスに反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事に際には地域の方に声掛けをし参加して頂いています。又散歩の時等ご挨拶をしお話しをして交流をしています。	地域とは良好な関係を築いている。町内会の総会や新年会に利用者が出席し、事業所行事には地域の方達が参加している。同法人保育所の子供達の訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の生活の中で地域の方との交流の場や運営推進会議を通じて認知症の方への理解を時間を掛けながら、行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議の中で日常生活の様子行事活動、事故報告を行い地域の代表や民生委員包括支援センター職員入居者の方に参加頂き、ご意見ご要望を聞きカンファレンス等を通じてサービス向上に努めています。	会議は定例に開催し、地域包括支援センター職員や地域代表、利用者、法人関係者が参加し、事業所運営や災害対策などについて話し合っている。討議された内容はサービス向上に活かしている。家族に参加を呼びかけ、議事録を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は札幌市、各区の連絡会議に出席し他事業所の方との交流や情報交換を行い質の向上に努めています。	行政の担当課とは通常業務の中で連絡をとり合い協力関係を築いている。市や区の管理者会議には他の事業所とも情報交換を行い協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し学びながら、入居者様の尊厳を守る事を心掛けています。玄関の鍵は日中は開放し入居者様、ご家族様が自由に出入りして頂いています。	マニュアルを整備している。身体拘束についての研修会に参加し、職員の意識の共有をはかり、身体拘束のないケアを実施している。玄関は施錠せず利用者が外出を希望する時は付き添い安全を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員内研修に全員で参加して学んでいます。職員は自己研磨と専門性の向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会を得て知識を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に添い1ページづつご説明をし入居者様やご家族様の疑問点や不安な点をお聞きして理解をして頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の中で言動、表情によりその方の思いをくみ取る努力をし、カンファレンスや日々の申し送り職員間で共有しケアプランに反映しています。入居者様に運営推進会議に参加して頂き思いを表現して頂ける様努めています。	毎月「てんとう虫通信」を発行し家族に送付して利用者の生活状況を伝えている。年1回アンケート調査を行い、利用者や家族の意見を把握して事業所運営に反映させている。外部への苦情受付相談窓口を掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH事業室を中心にし月に1度管理者が集まり意見交換、情報交換をし、問題点については、迅速に解決しサービスの向上に努めています。年に2回職員自己申告書により職員の意見提案を聞く機会があります。	毎月法人のグループホーム事業室を中心とする管理者会議があり意見交換をしている。職員の自己申告書を年2回提出する機会があり、職員の意見や提案は運営に反映させるように行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己申告書で努力等述べる機会があり、面接を併せて行い向上心を持って働ける様努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画(内外)に基づき、職員に合う研修を受け一人一人が自己啓発に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回職員が交流する場を設けています。又相互に訪問しあったり、研修会ではグループワークを通じて親睦を深めたりサービスの質の向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居前にご本人に会いお話しを伺ったりご家族様から情報を頂きながらお気持ちを受けとめられる様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご苦勞や、不安等をお話し頂きながら、職員エリアマネージャーと相談しご家族様のご要望にお応え出来る様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービスの利用も含めた対応に努めている	早急な取り組みが必要と思われる相談者の方には柔軟な対応を行うと共に他の事業所のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である入居者様に教えて頂く事ばかりです。感謝の気持ちをお伝えし、自信を持たれ心身の活性化に繋げて行けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の参加して頂ける行事を企画したりご面会や毎月の通信でご様子をお伝えしています。又変化がある時は連絡をさせて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や友人、知人のご面会時はお部屋でゆっくりお話しをさせて頂いています。お電話もお好きな時にして、お話しをされています。これからは途切れる事が無い様努めています。	家族や友人の来訪時には事業所内でゆっくり寛げるように配慮している。親しい友人の電話を取り次ぐなど、馴染みの関係が継続されるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやお手伝いを通じて入居者様同志が協力しあったり、アドバイスされる様子が有ります。お茶の時間には職員も交えてゆっくり関わり合う様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療施設に入院されてもお見舞いに行き馴染みの関係を継続する様努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中でご本人の要望、意思を十分に把握しケアに反映出来る様努めています。又意思表示が難しい方にはその方の立場を考えながら表情や仕草の中から読み取る様努めています。	日頃の会話や行動から本人の意向を把握し、本人や家族から聴取した情報はケース記録に記載し職員間で共有し、本人の希望に沿えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様から情報収集を行うと共に日々の会話の中から生活歴環境、交友関係等を探りケアに役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に入居者の方の所在を確認して心身の変化を見逃さない様、申し送りやカンファレンス時に職員全員で情報を共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月、半年ごとの評価、モニタリングを職員全員で行いケアの在り方を話し合い、ご家族様やご本人からのご希望をお聞きしその方らしい生活が出来る様ケアプランを作成しています。	本人や家族の意向を尊重し、担当職員や介護支援専門員を中心に職員全員で介護計画を作成している。3~6か月毎にモニタリングを行う他、現状に即して見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの気づきや工夫の実践は情報共有し実践、結果をカンファレンスし日々のケアや介護計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の代行、買い物の代行等柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方や町内会の方との日々の交流を図りながら、地域の活動や催し物に参加できる様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の看護師による健康管理月2回の主治医による訪問診療で顔なじみの関係が出来ています。個々の思いに対応して、24時間対応も出来ています。	利用者が希望する医療機関受診には家族と共に協力している。同法人クリニックからの月2回の訪問診療と看護師の訪問があり、24時間医療連携のとれる体制にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師時に入居者様の健康状態の報告、相談を行っています。24時間体制で対応し医療機関とのパイプ役となって頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談委員と連携をしながら、ご家族からの情報やご本人との面会をし、早期退院に向け話し合いを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	ご本人やご家族の意向を把握し、出来る限りのご支援をご家族の協力を得ながら、取り組んでいます。	本人、家族の意向を尊重し、重度化に伴う指針については早期に確認している。医師、看護師、家族と方針を共有し、個々の状態に沿いながら最善を尽くしている。職員は看取り研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の緊急時マニュアル等を熟読し内外の実践研修で、身につけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の応援体制は整っています。避難訓練も年2回定期的に行い地域の方の協力体制も築いています。	避難訓練は年2回消防署指導のもと実施している。隣接する法人施設や地域住民と協力体制を築き、緊急時連絡網が整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間の申し送り時はプライバシーに配慮しながら行い、人生の大先輩である皆様に対しての尊敬の念を持ちケアに努めています。	職員は利用者の人格を尊重し接遇に配慮している。申し送り時の名前はイニシャルを使い、個人情報記載書類の取り扱いには十分注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が全て決める事が出来、思いや希望も表現出来る様な場面を作り、その方のサインを見逃さない様に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、レクリレーション等一人、一人のペース体調思いに沿い支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選び、身支度はご本人が自由に選んだり、ご家族の協力を得ながら、支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間が楽しみになる様に好みや食べやすい様に工夫したり、準備や後片付けを入居者様と職員と一緒にしています。	食事の準備や後片付けは利用者の能力に応じて職員と共に行っている。食事中は音楽を流すなど、職員は利用者が食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の生活習慣の上に栄養バランスと水分量が十分に摂取出来る様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの充実の為に必要に応じて歯科の定期受診を行ったり、日々の歯磨きや義歯のケアを支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンや習慣を考慮してトイレでの排泄や自立に向けての支援を行っています。	個々の排泄記録や表情から排泄パターンを把握して適時にさりげなく誘導し、トイレでの自立排泄を支援している。殆どの利用者が布パンツ使用である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態の把握と食事、水分量の工夫、運動等で予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様がゆったりと入浴して頂ける様に個々の思いや希望をお聞きして支援しています。	週2回以上の入浴を実施しているが、一人ひとりの希望や体調、タイミングに合わせていつでも入浴できるように準備している。シャワー浴や足浴、清拭も行い清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や習慣をもとに安心して休んで頂ける様環境を整えています。入床や起床は無理強させず、夜間よく休めるよう日中の軽い運動や散歩等で生活のリズムが整う様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬についての知識を深め、服薬の支援と症状の変化に注意して観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみや喜びを把握し、生活歴を生かした役割を見つけ出せる様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩や月に1度の外出支援を行い、安全に配慮をしながら見守り支援をしています。	日常的には近隣散策をして外気に触れている。旭山公園や動物園見学、外食などへの外出を支援し、利用者の生活の活性化に努めている。時には法人の他事業所と合同でバスドライブを実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所のスターやコンビニへご自分で選んだ物を購入して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも使用して頂いています。又ご自分で出来ない方へは、取次等の支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや音楽の音量は皆様と相談をして決めて調整しています。季節の花や飾り等で季節感を出して、居心地の良い空間づくりに努めています。	全館清掃が行き届き、清潔である。居間には季節感のある飾り付けをし、廊下の壁など各所に絵画を飾り、家庭的で温かい雰囲気である。採光、温度、湿度に配慮し快適に過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブル、ソファがありそれぞれくつろいでおられます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やテレビ、写真や小物等それぞれ持ち込まれ、安心して過ごして頂ける様配慮しています。	居室は収納スペースがあり、程よく整頓され清潔である。使い慣れたものを持ち込み、家族の写真を飾り、利用者が落ち着いて暮らせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	得意な事や残された力を生かして行ける様職員一同心掛けています。廊下トイレ、階段には手すりを配置し一人での移動が安全に出来る様配慮しています。		